

農園通信 1 月



寒中、寒さ厳しい時節です。農園では年明けとともに小梅、蠟梅が開花しました。さらにボケ、ホトケノザ、オオイヌノフグリも咲き、露の臺も土の上に姿を見せています。学生講座が終わり、農園は静まり返り、寒さ厳しい中ですがそこここに春の息吹を感じます。

蠟梅の背景に映る看板は学名変更に伴い、間もなく役割を終えます。



12月になって農園の片隅、梅の株元に右のようなものが見られました。中には下のように柿の種子を見られます。



タヌキの「ためふん」です。住宅街のはずれで緑の多い農園にやってきました。その姿を見ることはありません。しかし、「ためふん」や防草シートに足跡が見られることから夜な夜な畑を徘徊しているようです。幸い作物への影響はありません。柿を食べているようです。熟して落ちてしまいそうな渋柿が農園の片隅にあります。



昨年は一昨年と打って変わっ

て蜜柑、柚子、獅子柚子がたくさん実りました。獅子柚子を持ち帰り、作ったジャムが家族に好評で、再度持ち帰る学生もいました。

柚子の木には大きなとげあり、収穫に一苦労します。そんな梢の中にキジバトは巣を作っていました。

試食用に栽培しているサツマイモで非常に大きなものが収穫できました。5 kg、ずっしりです。3.5 kgを始め、3 kg前後の芋を掘り上げた学生もあり、猛暑の中でもしっかりと生育したようです。

